

氏名	李 正姫
学位	博士
専門分野の名称	文化科学
学位授与番号	博甲第 4805 号
学位授与の日付	平成 25 年 3 月 25 日
学位授与の要件	社会文化科学研究科社会文化学専攻 (学位規則(文部省令)第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	在日コリアンにおける二文化への態度とメンタルヘルス
学位論文審査委員	主査・教授 田中 共子 教授 長谷川芳典 准教授 堤 良一 岡山大学名誉教授 小林 孝行

学位論文内容の要旨

本研究では、移民的な集団としての在日コリアンの二文化への態度とメンタルヘルスについて、心理学的な視点と手続きによる研究が行われている。二次元文化変容モデルおよびそのモデルを用いたメンタルヘルス研究は、西洋では研究蓄積が厚い一方で、在日コリアンでは未開拓である。そこでまず在日コリアンにおける文化変容態度について探索的研究を行い、測定尺度の構成を試みた。二回の質問紙調査を実施し、その分析から、在日コリアンにおける文化変容態度を実証的に解明し、メンタルヘルスとの関連を明らかにした。

研究 1 では面接調査が行われ、二文化環境との関わり方とアイデンティティのありようが探索された。問いとしては、韓国人、日本人、統合人、自由人を提示して選んでもらい、その選択と文化に関する語りとの対応を分析した。その結果、日本人としての意識と韓国人としての意識が共に低い者を自由人とする、その下位分類として積極派自由人と消極派自由人が見いだされた。前者は個人や地球人などの代替カテゴリを標榜し、後者はカテゴリ意識自体が希薄であった。葛藤はアイデンティティ選択によらず普遍的であった。二文化に即した態度については、社会的文脈によるスイッチングがみられた。ここで見いだされた二文化カテゴリによらない自己の捉え方、葛藤、スイッチングは、従来の二次元文化変容モデルでは説明のつかない現象であり、在日コリアン研究の特徴的な発見と考えられた。

研究 2 では質問紙調査が行われ、自由人の測定が試みられ、超越志向の概念へと集約された。日本と韓国の二文化間における文化変容態度の測定には、海外で使われてきた測定枠組みを使いながら、独自の項目内容を設定して、因子構造の検討などを経て独自の尺度構成が試みられた。それらを用いて因果モデルを検討したところ、超越志向に対しホスト志向は直接正の影響を、エスニック志向は直接負の影響を与えていた。高ホスト志向であるほど超越志向が高まりやすく、高エスニック志向になるほど超越志向にはなりにくいことが分かった。メンタルヘルスに関しては単項目で測定され、文化変容態度との関わり概略が探索された。

研究 3 では、在日コリアンのメンタルヘルスについて、うつと幸福感が、既存尺度を用いて測定された。そしてメンタルヘルスと文化変容態度、および超越、葛藤、スイッチングとの関連が検討された。その結果、メンタルヘルスはエスニック志向の度合いとは関連が希薄だが、ホスト志向の度合いとは有意な正の関連があることが分かった。ホスト志向として測定されている内容は、ホストの外的な条件への一体化である。すなわちホストカテゴリへの所属感、ないしはホスト社会に溶け込んでいる認知がある場合には、幸福が高くうつが低いといえる。なお超越志向に至る経路は二つあり、一つはホスト志向の高さから直接、もう一つはエスニック志向から、スイ

ッチングを経て葛藤を経験し、超越志向に至るものである。エスニック志向は、直接的には超越志向を低下させることから、超越志向には集団カテゴリからの開放という心理的意味があつて、エスニックへのこだわりは集団カテゴリの強調をもたらして超越志向を抑制すると解釈される。

最後に総括が行われ、西洋の知見との異同と本研究における発見的な知見が論じられた。日本という受け入れ社会において、在日コリアンという移民的な集団を対象に、文化変容態度とメンタルヘルスを探求する意義と課題が論じられた。

学位論文審査結果の要旨

最初に本研究の概略が述べられ、次いで審査委員からの質問が行われ、それに答える形で学術的な議論が行われた。本論文では、西洋で心理学的な移民研究が蓄積される一方で、心理学的研究が乏しい在日コリアン研究に、心理学の測定方法と概念を持ち込んで開拓的な研究が行われている。独自の概念設定として、超越志向などの興味深い概念を立てて、西洋に発信する価値のある、発見的な報告をしていること、さらに欧米の研究を丹念に読んだ上で、日本社会の環境に起因する結果への解釈を加えて、異文化滞在者の心理に対する、受け入れ側の社会の要因を指摘したことで、従来の常識とみなされてきた欧米の定説への革新的な提案に繋がることが評価された。

一方で、論文としての体裁の不備について、修正が指示された。審査員からは、不適切な表記に懇切に印を付けた本文が渡された。また社会的文脈の解釈や関連分野の研究の引用に関して、不十分などところがあること、研究手続きにおける緻密さが不足する箇所があること、初期の探索的研究においては理論的検討に不十分さが残っていたためリサーチクエスションの設定に無理が含まれることなどが、問題点として挙げられ、これらの課題の認識と解決策について申請者の意見が求められた。

質疑の中で投げかけられた問いには、以下がある。サンプルの特徴とそれに基づく結果の解釈、ホストとの外見的類似の与える心理的影響、在日コリアンの下位集団間の違い、超越的カテゴリの標榜が持つ心理的な自己呈示としての意味、西洋的な個の主張と東洋的な同質性の確認という多様性共存の方略差に基づく説明の可能性、ホスト志向の心理的役割が有意という結果に対するエスニックの心理的役割の再定義、在日コリアン集団の特徴と日本社会の特徴についての分離可能性、滞在者とホスト社会の組み合わせによる説明可能性、自尊心や劣等感などの心理的変数による媒介の可能性、超越と統合の概念的な異なり方、図表における数値の意味と解釈などである。申請者と審査者との間で、これらの問いをめぐる議論が展開された。

残された課題として、以下が述べられた。国と家族と個人などのような異なるレベルでのさらに精緻な研究が望まれること、変数間の関わりを把握する次の段階として心理的な影響過程の機序の探求が望まれること、心理的説明変数を増加させての更なる検討が期待されること、統計的には測定できなかった周辺化の志向について方法を工夫して探求の俎上に載せて解明を進めること、スイッチングメカニズムの詳細を明らかにすること、メンタルヘルスの向上という応用的な示唆に繋げること、超越志向のサブタイプ化と超越志向の向上の介入策を考察すること、年代差など個人の属性による違いをもっと検討すること、他の民族や他の受け入れ社会での調査を進めて対比的整理を行うこと、社会学の知見とさらに結びつけた解釈をすることなどがあつた。申請者からは、これらの問題に対する見解、解決の方法とその実現性などが回答された。

研究結果はすでに国内外で発表されているが、未解決の問いが豊かに見いだされることは本主題の発展性を意味する。申請者は様々な問いに対する見解と見通しを語り、レベルの高い学術的議論を展開できる能力を示した。更なる研究展開の可能性が期待できる。審査委員は全員一致で、本論文を合格と判断した。